

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## インド、利上げ圧力が一段と強まる (Asia Weekly (6/14~6/18))

~堅調な内需がインフレ圧力に。緊急利上げの可能性も~

発表日: 2010年6月21日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

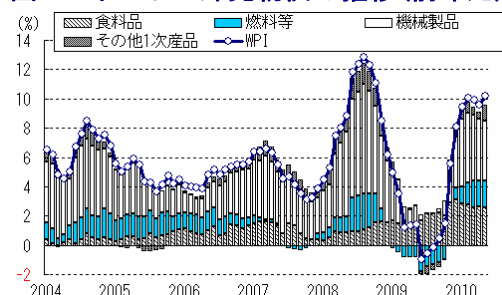
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/14 (月)	(ニュージーランド) 4月小売売上高 (前月比)	▲0.3%	▲0.2%	+0.5%
	(インド) 5月卸売物価 (前年比)	+10.16%	+9.60%	+9.59%
	(香港) 1-3月期鉱工業生産 (前年比)	+0.4%		▲4.9%
6/15 (火)	(フィリピン) 4月失業率	8.0%		7.3%
	(シンガポール) 4月小売売上高 (前年比)	▲2.6%	+0.8%	▲2.6%
	(前月比/季調済)	▲2.2%	+0.9%	▲1.4%
6/16 (水)	(フィリピン) 4月海外労働者送金 (前年比)	+5.4%		+5.6%
6/17 (木)	(シンガポール) 5月非石油輸出 (前年比)	+24.4%	+25.7%	+30.0%
	(前月比/季調済)	▲0.1%	+1.0%	+2.5%
	(香港) 5月失業率 (前年比)	4.6%	4.4%	4.4%
6/18 (金)	(マレーシア) 5月消費者物価 (前年比)	+1.6%	+1.6%	+1.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [インド] ~インフレ率は3ヶ月ぶりに二桁に到達。緊急利上げに踏み切る可能性も考えられる~

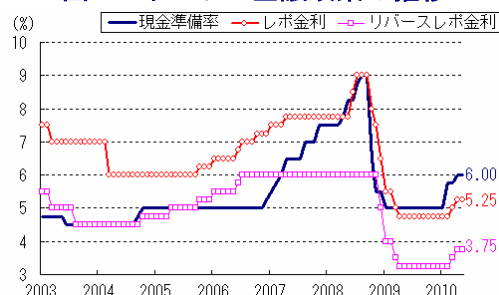
14日に発表された5月の卸売物価は、前年同月比+10.14%と前月(同+9.59%)から加速し、3ヶ月ぶりに二桁に達した。前月比も+1.73%と前月(同+1.16%)から加速しており、春物の収穫期を迎えて食料品価格は低下しているにも拘らず、国際商品市況を反映してエネルギー価格が上昇したほか、一次産品価格のみならず一般消費財価格も上昇するなどインフレ圧力が高まっている。金融当局は今年2月に預金準備率を引き上げて以降、3月・4月と2ヶ月連続で政策金利を引き上げるなど金融引き締めを進めているが、市中の資金供給量は拡大しており、過剰流動性を十分に吸収出来ていない。5月は外国人投資家が売り越しとなったが、資金供給量は拡大しており、第3世代(3G)携帯電話の入札に掛かる資金供給緩和の影響などはあったものの、旺盛な内需がインフレ圧力を高めている。また、4月の鉱工業生産は前年同月比+17.6%に加速し、生産拡大が続いていることから、先行きは一段とインフレ圧力が強まると予想される。金融当局は7月27日に次回の定例会合を予定しているが、その前に緊急利上げを行う可能性も考えられよう。

図1 インド 卸売物価の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 インド 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 インド マネーサプライ(M3)の推移

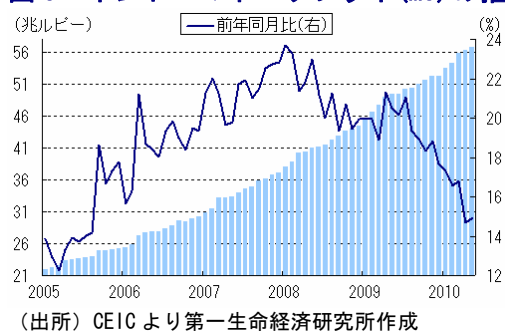
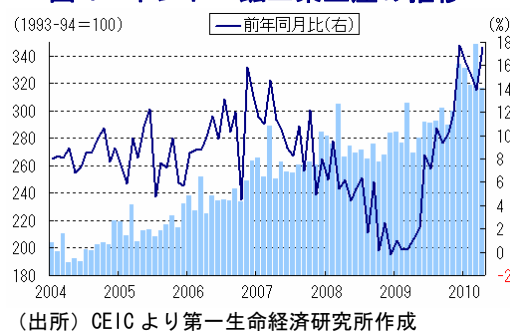


図4 インド 鉱工業生産の推移



### [シンガポール] ～自動車を除く消費は堅調に推移し、輸出も底堅さが続くなど景気は上振れの可能性も～

15日に発表された4月の小売売上高は、前年同月比▲2.6%と前月と同じマイナス幅であり、前月比も▲2.2%と前月(同▲1.4%)に続いて減少した。なお、同国は他のアジア諸国と異なり、自動車販売促進策などを採っておらず、自動車を除いたベースでは前年比+7.4%、前月比+1.5%とともに増加しており、雇用環境の改善を背景に個人消費は堅調に推移している。また、物価上昇を控除した実質ベースでも増加基調が続いており、4月以降も底堅い消費が続くと予想される。

17日に発表された5月の非石油輸出は、前年同月比+24.4%と前月(同+30.0%)から伸びが鈍化し、前月比も▲0.1%と前月(同+2.5%)からわずかに減少した。なお、石油輸出を含む総輸出も前年同月比+29.1%と前月(同+30.0%)から伸びが鈍化したものの、前月比は+1.7%と前月(同+1.9%)から増加しており、アジア向けを中心に堅調に推移している。一方の輸入は、前年同月比+20.8%と前月(同+32.0%)から大幅に伸びが鈍化し、前月比も▲5.3%と前月(同+3.9%)から一転して減少した。この結果、貿易収支は+53.31億SGドルと前月(+40.55億SGドル)から黒字幅が拡大している。なお、5月の輸出が季節調整値で前月とほぼ同じ水準となったことから、4月に前月比+24.3%と大幅に上振れした鉱工業生産は5月も堅調に推移していると予想され、景気の上振れ要因になると予想される。

図5 シンガポール 小売売上高の推移

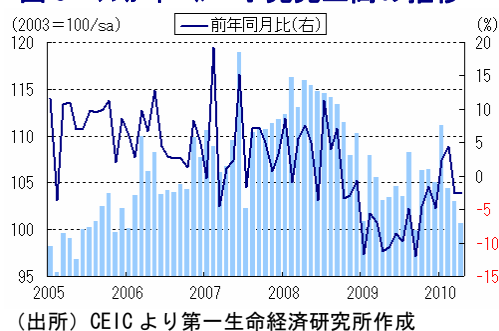


図6 シンガポール 雇用環境の推移

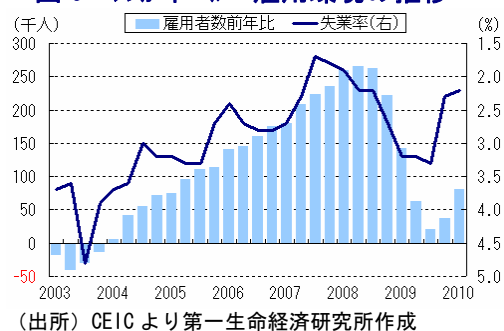


図7 シンガポール 中国・香港向け輸出額の推移

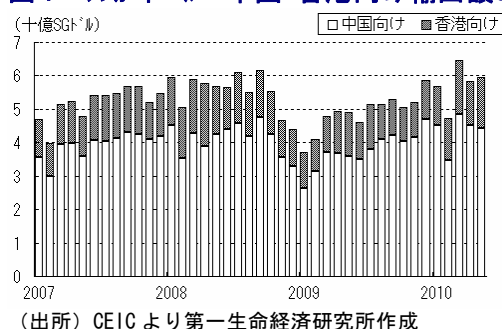


図8 シンガポール 輸出入の推移(前年比)

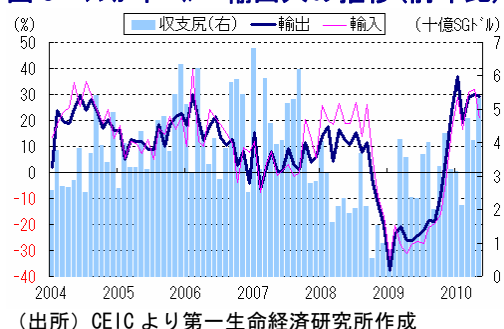
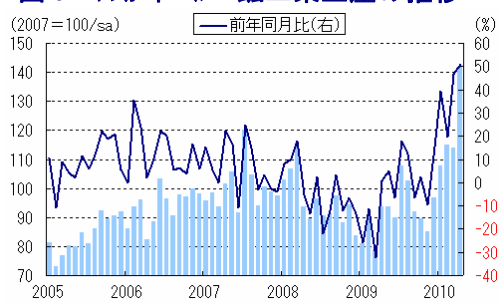


図9 シンガポール 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上